

平成16年度

社会科学研究所 修士課程 経営学専攻

(高度専門職業人養成プログラム)

## 入学試験問題

試験科目：小論文・数学

平成15年 11月29日 (土)

時間：10:00 ～ 11:30

### 注意事項

- ① 問題は、開始の合図があるまで、開いてはいけません。
- ② 問題には小論文 [1] から小論文 [10] と数学があります。  
このうち1問だけ選択してください。
- ③ 答案用紙には、受験番号、氏名を書き、数学、小論文のいずれか選択した方を○で囲んでください。また、小論文を選択した場合には、問題の番号を記入してください。
- ④ 試験開始後、受験者の写真照合を行いますのでご協力ください。
- ⑤ 試験開始後30分以内は、退場できません。
- ⑥ 問題、答案用紙、下書き用紙は、試験終了後回収します。

## 小論文 [1]

以下の文章を読み、1つの企業や製品の調査・研究することの意義について、あなたの考えることを述べなさい。

「1つのヒット商品を説明することと、新商品のヒット率の高い企業を研究することはどちらも重要であり、どちらにも論理はあるだろうが、それらは同一のものではないのである。

1つの新製品のヒットは、1回限りの歴史的偶然に少なからず左右される。だから、ヒット製品の開発ストーリーを読むのは面白い。特に碓義朗、内橋克人、柳田邦男など、一流の書き手のものは資料価値も高く読み応えがある。また、実際に新商品開発に携わった関係者の話を聞くのはもっと面白い。いずれにしてもそこには、歴史のいたずらや偶然の出会い、不思議な縁、開発者の人間模様などが絡み合っていることが見えるからである。

しかし、これらの個別ケースをあれこれ読んでも、高い率でヒットを生み続ける組織の一般的特徴は掴み切れない。確かに、そうした成功ストーリーの中には、ヒット商品開発の定石も数多く潜んでいるかもしれないが、逆にそうした定石を打てば必ず勝てるというものでもない。

結局、実証経営学者として筆者が説明すべきことは、やはり「長期的に見て打率の高い開発組織のあり方」であろう。」

(藤本隆宏、安本雅典編著『成功する製品開発』より。一部改変)

## 小論文 [ 2 ]

以下の文を読んで問に答えてください。

人間の意思決定に対する他者の権威の影響力を検証するために、以下のような手順で実験がおこなわれた。

実験への協力者募集に応じた被験者（A氏）が実験室に着くと、もう1人の被験者（B氏）と、その実験を主催する研究者（X氏）がいた。

X氏によって、A氏は「先生役」、B氏は「生徒役」を割り当てられた。B氏はついたての向こうの椅子に座らされ、A氏からは見えなくなった。ふたりに対してX氏が実験の手順を説明した。「この実験は、人間の問題解決効率に対する罰の効果を測定するものです。先生役のAさんに、いくつかの問題が書かれた紙を渡します。AさんはBさんに問題をひとつずつ読み上げてください。Bさんはそれに答えていってください。Bさんの答えが間違っていた場合、Aさんは手元のボタンを押してください。するとBさんに電気ショックが与えられます。電気ショックの強さはAさんの手元のレバーで操作できます。Bさんには多少の痛みがありますが、人体には無害ですので安心してください」

実験が始まった。A氏が問題を読み上げ、B氏がその問題に答える。B氏が間違うと、X氏は「ボタンを押してください」とA氏に指示する。A氏がボタンを押すと、ついたての向こうのB氏は「痛い」などと言う。問題が進むごとに、X氏はA氏に対して徐々にレバーを上げて電気ショックを大きくするように指示した。それにつれて、答えを間違えて電流を受けたときのB氏の声は大きくなり、「やめてくれ」「もうたくさんだ」などと訴えるようになった。それでもX氏は、「人体には無害ですから続けてください」とA氏を促した。ただしX氏がA氏に強圧的に指示することはなかった。

種を明かすと、実はB氏は本当の被験者ではなく、X氏の仲間であり、いわゆるサクラであった。実際にA氏がボタンを押してもB氏に電気ショックは与えられない。B氏は電流を感じてもいないのに演技をしていたのである。つまりこの実験の本当の被験者はA氏だけだったのである。ただしA氏にはそのことは最後まで知らされなかった。

この実験の真の目的は、他者の権威が人間の意思決定に及ぼす影響力の強さを検証することにあった。大学の研究者であるX氏の権威がA氏にどのような影響を与えるのか、すなわち、電気ショックの程度を上げてボタンを押すようにというX氏の指示に対して、A氏がどこまで従うのかを記録していたのである。

実験は被験者を代えて何回かおこなわれた。事前の予想では、被験者の中で最大の電流を流すところまでいく者はほとんどいないだろう、ほとんどの被験者はどこかで止めるだろうと思われた。しかし結果は、被験者の多くが最大の電気ショックまで与えてしまった(もちろんそう見せかけていただけであるが)。被験者は大学の研究者であるX氏の権威に服従してあのような行動に出たのだと解釈された。そこから、「人間が権威に服従する傾向は、一般に思われているよりも強い」という仮説が導かれた。

(注：問題作成の都合上、実際におこなわれた手続きとは一部異なっている。また、この実験には倫理的な問題があることを付記しておく。)

[問1]

この実験だけでは、A氏が本当にX氏の権威に服従していたかどうかは分からないという批判があります。権威の影響でないとすれば、被験者が電気ショックの程度を最大まで上げた理由について、ほかにどんな解釈がありうるでしょうか。考えられる解釈を仮説の形で列記してください。またそれぞれに理由を付してください。

[問2]

問1であげた仮説のうちひとつを取り上げて、それを検証するための実験計画をつくってください。ただし、なるべくもとの実験に準拠しながら、手続きの一部を変更した実験計画にしてください。

[問3]

他者の権威が人間の意思決定に及ぼす影響について、あなたの見解を述べてください。

## 小論文 [ 3 ]

1. 別紙の論文は、技術はただ単にそれが優れているからという理由で発展していくのではなく、実際の技術変化にはさまざまな社会集団が関わっているという「技術の社会的構成 (SCOT)」について論じたものである。この論文を読み、企業における技術 (製品) 開発過程を、SCOT の観点から説明しなさい。
2. SCOT の理論的境界を概説し、この境界を克服するために、どのような技術 (製品) 開発過程に注目すべきなのかについて述べなさい。

